

# おうちの はなし

227

## コンパクト・コンセプト

—暮らしを豊かにする広さとは？

- ・世界遺産の小さな家
- ・ウサギ小屋の真実
- ・広さと豊かさ

自分が選んで集まってきた品々は、程よい距離を見つけ出して鎮座する。座ったまま手を伸ばせば届き、新聞を広げても触れることもない。ただ太陽は空を過ぎ、その隙間の距離を移ろいながら影に落とす。



### 「キャリアの差」

家の中の暮らし方が随分と急速に変化していますね。

掃除機は・・・しゃべるし、光るし、勝手に掃除してくれる。

冷蔵庫は・・・瞬間冷凍、じっくり解凍、野菜の鮮度保持や、氷だって勝手に作ってくれる。

洗濯機は・・・時間通りに洗って、乾燥。洗剤の分量も衣類の量に合わせて勝手に測ってくれる。

圧力鍋は・・・教えられた具材を入れてスイッチを入れたら、10分後にはできる。



ママはインテリアコーディネーター

一般社団法人 日本インテリアアソシエーション 理事長 小川千賀子

もしかしたら、この先歳をとったら、もっと暮らしやすくなる？

掃除の仕方・・・部屋は丸くはない。畳は目に沿って、隅々まで目を凝らして埃を掃き出す。

洗濯の仕方・・・下洗い、つけ置き洗いがよいものを選別する。

料理の下ごしらえ・・・料理を作り始める時間を計算して、解凍の方法と仕方を適切に選択する。

煮物のコツ・・・母の味を守るべく、ちょこちょこ味見をしながら味を調整する。

なーんて、多少は私に掃除、洗濯、料理のキャリアと思っていたけど、逆にこれからは家電の方に軍配が上がりそうです。

将来、歳をとっても暮らしやすくしておく工夫、練習も兼ねて今から始めておくのもいいと思います。

# コンパクト・コンセプト

## 世界遺産の小さな家

多様な動植物を有する奄美・沖縄の島々が世界自然遺産に登録勧告されました。イリオモテヤマネコやアマミクコウサギなど、進化論の中でも希少な動物たちが生き残る奄美・沖縄の大自然は、屋久島、白神山、知床、小笠原諸島に続く、日本で5番目の世界自然遺産になります。

世界遺産はユネスコ(国連科学文化機関)が、将来に残すべき遺産として定めているものです。自然遺産には地球の生み出した雄大な自然が選ばれ、文化遺産は人類が生み出した建造物などが選ばれています。

日本の文化遺産としては、世界最古の木造建築物である法隆寺や、姫路城などの城郭、そして産業新興や信仰としての場があります。

その世界文化遺産の中で、2016年、近代建築運動への貢献ということで、コルビュジェの建築群が選ばれました。主にコルビュジェが活動していたフランスが中心ですが、日本の上野にある西洋美術館も対象になっています。

じつは、コルビュジェの世界遺産群の多くは、集合住宅を含めた住宅で、今でも実際に住んでいる個人邸もあるほどです。そうした世界遺産の中に、スイスのレマン湖のほとりに、コルビュジェが両親のために建てた、その名も「小さな家」があります。

「小さな家」は、4m×16mしかありません。日本流の面積で表現すれば、わずか19坪ほどです。

この「小さな家」を建てて、30年以上も経ってからコルビュジェは本を執筆するほど思いを込めていました。



コルビュジェは、「小さな家」の設計にあたり「住む機械」としての家のあり方への思いを込めました。家としての最小限の実用性と、必要な機能をできる限り小さい面積で考えています。

両親がくつろぐリビングと寝室をつなぐように、コルビュジェの特長でもある横長の窓があり、レマン湖の壮大な風景が室内に取り込まれます。他には、庭との間にゲストルームがあるだけの家です。

およそ100年も前に建てられた家ですから、現代のライフスタイルを考えると間尺に合うはずもないと思えるのですが、コンパクトな設計には、改めて学ぶことも多いようです。多くの建築を学ぶ人たちが、この家を参考にしています。

そしてなによりも、生活の豊かさは広さではなく、凝縮され無駄のない空間にもあるとしています。



やがてコルビュジェは建築家として近代建築への道を開き、文字通り世界中で活躍し、日本を含めて多くの国に遺産を残すことになりました。

その一方、コルビュジェは著述の中で施行したビルダーのことも触れています。コルビュジェの活動の拠点であったパリからは遠く離れていて、職人を連れて行くわけにもいきません。結局、建設地であるスイス、レマン湖の地元のビルダーが手がけています。

結果的には任せっきりになり、その上、予算も厳しかったので、恐らくビルダーは苦勞をしたことでしょう。

地元のビルダーというのはエッセンシャルワーカーで、地域の住環境を維持するためには欠かせない存在です。建築家は世界で活躍できても、ビルダーはずっと地域にいて貢献しているのです。世界遺産となる「小さな家」も決して例外ではありませんでした。

そして「小さな家」というコンセプトは、いつの時代にも残されているものです。

# コンパクト・コンセプト

## ウサギ小屋

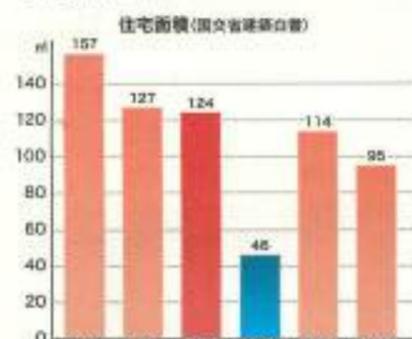
「小さな家」といえば、伝説の建築家のコンセプトよりも、日本人の家として例えられた「ウサギ小屋」を思い浮かべる人も多いのではないのでしょうか。

生活の基本である食・衣・住も、グルメやファッションといい替えれば、日本は世界でもトップクラスの食衣文化を持った国になっています。しかし住文化は、残念ながら決して先進とは思われていません。

「ウサギ小屋」という表現は、欧州共同体が出した「対日経済戦略報告書」(1979)に書かれたことに始まります。いかにも狭い家に日本人が住んでいるかのように感じてしまいますが、決して狭いだけの意味で使われているわけではありません。

それはそうです。その原文はフランス語で書かれていますが、そのフランスを代表する建築家のコルビュジェが、前項で書いたように「小さい家」をコンセプトにして近代建築を生み出したのですから。

さらに、欧米の住宅との面積を比較してみると「ウサギ小屋」が真実であるとは思えません。



ここでは、貸家を除いて、各国の持家で比較しています。アメリカの住宅面積が大きいことは一目瞭然ですが、日本はドイツとわずかな差であり、フランスやイギリスよりも広いことがわかります。

フランスとの10㎡の差は、6畳一間分に相当し、イギリスとの差は30%もあって、16畳分の差となります。単に狭いという意味での「ウサギ小屋」という言葉で日本の住宅を表現するのは、持家住宅では不適格であることが良くわかります。

ただ、隣に日本の貸家の面積も記載してみました。持家の面積が小さいイギリスでも、貸家面積は75㎡もあって、フランス・ドイツもそれほど変わりません。じつは、日本の貸家の面積は欧米に突出して狭いのです。

こうした貸家の多くは集合住宅になっていて、戸建に比べて狭い傾向にあります。ウサギの檻のように並べられた狭い集合住宅から、列をなして仕事場に向かう日本人の姿を例えたのが、本来の意味での「ウサギ小屋」の例えとなっているのです。



## トレンド「小さな家」

家の広さは、そのまま豊かさを象徴しているともいえます。欧州と比較して日本の面積が昔から広がったわけではなく、世界2位までの経済成長と共に実現できた住環境と考えられます。

しかし、その経済力も中国に抜かれ、経済成長も停滞している今は、豊かさに対する考え方も変わりつつあると思われれます。つまり、家の広さが、そのまま豊かさになるとは限りません。

それは、近年の新築持家住宅の面積の動向を見るとわかります。



大きなトレンドとして、住宅面積が小さくなっていることは明白です。もちろん多くの要因が重なってトレンドとなっているものです。

持家全体の平均値より、木造住宅の平均値が低いのは、木造を除く鉄骨造や鉄筋コンクリート造などよりも面積が小さいということです。比較的予算が高くなる非木造の方が、大きな家を建てているのです。

東京で建てられている住宅の面積は、さらに小さくなります。すでにフランスの住宅に近づきつつあります。あえて、フランス人の満足感を理解し始めてみると表してみましよう。

その上、東京では非木造の建築物も多く、木造住宅に限った面積ではグラフの下枠よりもさらに下の110.0㎡台まで、小さくなる傾向にあります。

## 広さと豊かさ

そんな東京では、新築の戸建住宅を取得しようと思えば、最低でも5千万円から億の予算を確保しなければなりません。それも土地取得費が高いことを勘案すれば当然のことですが、生活する家族は都市部も郊外も大きな違いはないはずで、

広い土地があり、家に予算がかけられるからといって、東京の平均的な面積である110㎡~114㎡よりも広い家であれば、暮らせないということはないはずで、

確かに貸家に暮らすよりも持家であることは、資産を失うばかりにならない点で有利になりますが、家を持つことがすべてではありません。同時に、生活を豊かにするためには、ちょうどよい家のサイズにして、日々の生活にも予算を配分する方が賢明です。

住宅も豊かさを広さに求めてきた時代は終わり、本当の豊かなライフスタイルに着目している人が増えてきていることが、住宅面積の減少というトレンドを招いているのです。重ねて加えるとすれば、それでもまだフランスやイギリスよりも広いのです。

それと同時に、住宅取得も夢やゴールではなく、QOLを向上させるための必須アイテムのひとつになってきています。

住宅の品質は、地震や寒さの心配をしない家が大事な要素であり、「小さな家」は消費するエネルギー量も少なく環境に貢献することにもなります。

たとえ小さな空間であっても、工夫を重ねて使いこなすことが、なによりもの生きがいになりうるのです。つまり、コンパクトであることがコンセプト

トの時代になってきているのです。

建築の巨匠コルビュジェの100年前の「小さい家」が、まるで現代の私たちに語り掛けてくれているようです。

## スペースの工夫

「小さな家」では、老夫婦が暮らすのに64㎡で、十分に足りています。さすがに子育て世代であれば、さらに子ども部屋も必要不可欠な時期があります。しかし、長いライフスタイルの中では、それほど遠くない将来に子ども達は家を卒業してゆきます。逆に、我が子が育って旅立つことを願わない親はいないと思います。

子どもがいなくなったその後に、いたずらに部屋を余らせて放置しておくことになっては、大切な家を使いこなしているとはいえません。

それを考えると、必要とされる子ども部屋は、最小限で考えておけばよく、さらには可変の間仕切りによって部屋のサイズも変えられるように考えておくことです。

また、たとえば子ども部屋の空間の活用法は、図面の上で検討するのは難しいばかりです。広さだけでなく、高さを上手に活用することで変わります。

それは子ども部屋に限られた話ではなく、小さな空間であっても、現実の生活の中で工夫を凝らせば、想像以上の使いこなし方も発見できるはずで、家具なども、平面図で配置するよりもずっと効率的な配置が見つかるものです。

同じように、廊下の幅も平面図で検討すると75cm以上の幅を必要としますが、生活の中では、その半分のスペースでも行き来ができることもあります。廊下や通路などを極力省くのも、大事な空間活用術の基本となるでしょう。

そのかわり、小屋裏などのちょっとした空間も活かせる場所はできる限り有効に活用します。収納が確保できれば、それだけ生活空間を広げることにつながります。



そしてなによりも、家の大きさに直結しているのは予算です。予算のために家の性能を低下させることは、結果的に良い選択とは考えられません。それに対して、少しでも面積を小さくすれば、予算を抑えられることは明白です。

ウッドショックを筆頭に、建材価格も上昇傾向にあり、人手不足が常態化している建築業界では人件費も同様に上昇傾向にあります。

その上、家は持つだけではなく生活を楽しむことを大事にしなければなりません。家づくりのコンセプトに、「コンパクト」を求めるトレンドはこれからも続くことが予想されます。

モノカルマドリ



1F 17.0坪 2F 14.0坪 TOTAL 31.0坪

門型デザインの家

外観には門型の陸屋根に、小屋裏活用の切妻屋根を置き、中には箱型のバルコニーを設置。門型の厚みを3方に見せると木造住宅には見えなくなる。わずか103㎡の空間に、土間と2階テラスが盛り込まれた家である。



お洒落なベッドヘッド

デザインされたベッドヘッドは、ワンランク上のお洒落を感じさせてくれます。手触りの良い生地を用いることで、心地よい寛ぎのスペースに。



ベッドルーム

ベッドヘッド	デザインクラブオリジナル	ふかし壁クロス	シンコール/B89488 本目調
ベッドカバー	リリカラ/FD51172	アクセントクロス	ルノン/RF-8175
ナイトテーブル	FIS/グロウナイトテーブル35	カーペット	サンゲツ/サンワールドLO-1
クッション	シンコール/コルソ	レース	サンゲツ/EK8030
クッション	リリカラ/FD51015		

www.sumarepi.jp/ すまレピ 検索



ノッティバイン 木製内部ドア

北欧のインテリアでも優しくて温かみのある風合いが人気のバイン材を使った内部ドアです。ドアとはいいながらドア穴などの加工を施さず、さまざまな用途に使えることを特徴としています。ドア枠やドアハンドルは別売りで用意され、無塗装でも塗装でも選択できます。

使われ方で人気があるのがバードア。バードアはレールが外付けのスライディングドアでレールの存在感が異彩を放ち

ます。バードアとは「納屋」という意味。アメリカ農家の倉庫で見られたドアスタイルで、取り入れる方が増えています。ハードウェアもセット購入できます。

ハウディ独自のネットワークをいかし海外工場からの直輸入でリーズナブルな価格を実現。オンラインショップ「ハウディーPlus」からも購入できます。



ハウディー株式会社

ひとに教えたくなる チョットいい話

バードアは、ウォークイン・クローゼットやパントリーなどの収納室のドアや、部屋と部屋の間仕切り用ドアとしてなど、カーテンをつけるよりおしゃれでカッコイイとっていただいています。最近ではドアとしてではなく、仕上げた板材として間仕切りに使う方もいらっしゃいます。

●価格: ¥19,910(税込) ●サイズ: W813×H2032mm  
●403掲載商品: G-0473\_010

www.order403.com/



Compact Energy

脱炭素社会を目指して、急速に世界が動き出そうとしています。毎年のように発生する豪雨洪水や巨大台風も、地球温暖化によるものとされ、その要因の1つにCO<sub>2</sub>の増加があげられています。

世界中で動き回っている車は急務で、これからの10年で駆動機関そのものの変革まで迫られています。エネル

ギー問題はすべての人が絡む問題であり、コロナ対策のように皆んなで取組まなければならないことです。当然、住宅も含まれます。

その住宅の熱性能は、外皮の断熱性で評価されます。外皮1㎡あたりの断熱性をあげることで熱を逃がしにくくなり、省エネ住宅が達成されるのです。

外皮とは、床・屋根・壁などの外部との境にある、家の皮膚のようなものです。もちろん外皮は、建物の大きさや形状によって一つ一つ違います。

単純な計算をすれば、建物の床面積の2.5倍〜3倍程の外表面積があります。

仮に夫婦2人と子ども2人の4人が暮らすとすれば、冷房も暖房も、同じ温度に設定して基本的に消費されるエネルギー量は同じはずですが。

しかし、住宅の大きさが違えば、外皮面積が大きい分、逃げる熱量も増えてしまいます。大きい家に住んでいる人は、資金的にも余裕があるので大丈夫という訳にもいきません。その選択が地球環境に影響を及ぼすのです。

家族4人が、軽自

動車に乗るのか、あるいは排気量の大きい車に乗るのかという選択に近いのかもしれませんが、家族の目的が一緒であれば、できる限りコンパクトな車を選ぶようにするか、まだまだ購入価格が高いFCVやEVを選ぶことです。

もちろん家も、コストをかけて広い家でも消費エネルギー量を減らすことはできるかもしれませんが、コンパクトであることは、エネルギー面から考えても、大きな時代の潮流となってゆくことでしょう。



おうちのはなし

いつかは建てる、住まいづくりのための、情報紙「おうちのはなし」



日本の住宅建設の担い手  
住まいづくりの手順  
長期優良住宅制度  
建てるなら、やっぱり木の家  
家歴書の価値  
洋風デザイン・和風デザイン  
建築費の内訳の見極め方  
住まいづくりにかかる諸経費  
太陽光発電住宅特集  
家庭内事故と対策  
これからの住まいと暮らし

住宅情報紙「おうちのはなし」を年間購読しませんか?

年間24回発行×単価120円+送料100円  
年間5,280円(税込)  
毎月1日・15日頃、ご自宅にお届けいたします。

TEL 03-6272-6434  
FAX 03-6272-6449

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-4-8 4F  
www.ouchi874.org/

一般社団法人 住まい文化研究会

